

地球温暖化防止に向けた旧久喜市の取り組み結果です

市では、平成18年3月に旧「久喜市環境保全率先実行計画（第2次）」を策定し、市の事務・事業活動によって排出される温室効果ガスの総排出量について、平成11年度を基準として平成22年度に3%以上削減する目標を立て、取り組みを進めてきました。

平成21年度に排出された温室効果ガスの総排出量は4584トンで、基準年度比で、約16.1%削減できましたのでお知らせします。

問合せ 環境管理課環境企画係（内線2822）

平成21年度取り組み結果

取り組み項目	主な取り組み内容	結果	22年度目標値 （※1）
電気使用量（★）	昼休み時の消灯、ノー残業デーの実施、トイレ・給湯室等のこまめな消灯、冷暖房温度の適正管理、太陽光発電システムの活用等	10.9%削減	1%削減
施設の燃料使用量（★）	省エネルギー機器の導入、冷暖房温度の適正管理、沸かし過ぎや確実な栓締め等ガス器具等の適正な使用、ボイラー等の適正な運転等	36.5%削減	3%削減
公用車の燃料使用量（★）	水曜日ノーカーデーの実施、出張時の公共交通機関の利用、アイドリングストップの実施、公用自転車の利用等	24.4%削減	0.3%削減
水道使用量	節水コマの取り付け、こまめな蛇口の開閉、トイレの1回流し等	20.2%削減	7%削減
ごみの減量	分別回収ボックスの活用、使い捨て容器の購入や使用を控える、物品の共有化、生ごみの堆肥化等	全部署で概ね良好	分別の徹底
コピー用紙購入枚数	ミスコピー用紙の裏面使用、両面印刷・両面コピーの実践、市役所LANによるメール・掲示板の活用、会議資料の簡略化、必要最少部数の作成等	30.6%増（※2）	11%増以内
再生紙利用の推進 （ガイドライン適合率）	再生紙ガイドラインに基づき古紙配合率の高い製品を購入、印刷製本をする。印刷物に古紙配合率を表示し普及啓発を図る等	適合率88.8%（※3）	適合率95%以上
グリーン購入の推進 （グリーン購入率）	購入前にグリーン製品であることを確認、環境汚染物質を発生する製品の購入を控える、グリーン購入情報提供システムの利用等	購入率94.2%（※4）	購入率95%以上
公共事業に係る環境配慮 （A評価の割合）	公共事業環境配慮項目の実施、低騒音・低振動型の建設機械の使用、再生資源の活用、工事現場からの汚染防止、建設廃棄物等の適正処理等	A評価割合100%	A評価割合95%以上

（★）温室効果ガス排出量算定の基礎項目

※1 旧久喜市環境保全率先実行計画（第2次）で定めた目標値

※2 目標に達しなかった原因として、各種印刷物のプリンター出力が多くなっていること、合併協議などで紙の使用量が増えたことなどが考えられます。

※3 市の再生紙利用ガイドライン（古紙配合率100%）に沿った紙製品の購入や印刷が難しかったため。

※4 物品購入時にはエコマーク商品であるかなどを必ず確認し、さらなるグリーン購入に努めます。

エコドライブ10のすすめ（後編）

地球と財布にやさしいエコドライブを始めてみませんか？

6 暖機運転は適切に

寒冷地など特別な状況を除き、走りながら暖めるウォームアップ走行でじゅうぶんです。5分間暖機すると160cc程度の燃料を浪費します。

7 道路交通情報の活用

1時間のドライブで道に迷って10分余計に走行すると、14%程度の燃費悪化に相当します。

8 タイヤの空気圧をチェック

タイヤの空気圧が適正値より0.5kg/cm²不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度、それぞれ燃費が悪化します。

9 不要な荷物は積まずに走行

100kgの不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化します。

10 駐車場所に注意

交通の妨げとなる場所での駐車は、交通渋滞をもたらします。平均車速が時速40kmから時速20kmに落ちると、31%程度の燃費悪化に相当すると言われています。

※前編（1～5）は広報くき9月1日号7ページに掲載しています。

チャレンジ25キャンペーン
地球温暖化を防止しよう！
 国は2020年までに、温室効果ガスの排出量を1990年比で25パーセント削減することを目標に掲げ、国全体で取り組みを進めています。そのための国民的運動が、1月から始まった「チャレンジ25キャンペーン」です。
 問合せ 環境管理課環境企画係（内線2822）